

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年7月31日

上場取引所 東大

上場会社名 大日本住友製薬株式会社

コード番号 4506 URL <http://www.ds-pharma.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 多田 正世

問合せ先責任者 (役職名) 広報部長

(氏名) 樋口 敦子

TEL 06-6203-1407

四半期報告書提出予定日 平成21年8月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	66,048	△5.8	11,237	10.1	11,835	9.6	7,817	21.3
21年3月期第1四半期	70,129	—	10,208	—	10,802	—	6,446	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	19.68	—
21年3月期第1四半期	16.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	392,743	329,519	83.9	829.13
21年3月期	391,294	324,495	82.9	816.49

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 329,429百万円 21年3月期 324,408百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
22年3月期	—				
22年3月期(予想)		9.00	—	9.00	18.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	130,600	△2.8	12,800	△29.6	12,400	△31.9	7,800	△28.2	19.63
通期	264,000	△0.0	25,000	△19.8	24,000	△23.6	15,000	△25.0	37.75

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 397,900,154株 21年3月期 397,900,154株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 582,063株 21年3月期 580,814株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 397,318,598株 21年3月期第1四半期 397,414,655株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提条件等につきましては、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の売上高は660億48百万円（前年同四半期比5.8%減）、営業利益は112億37百万円（前年同四半期比10.1%増）、経常利益は118億35百万円（前年同四半期比9.6%増）、四半期純利益は78億17百万円（前年同四半期比21.3%増）となりました。

事業の種類別セグメントの状況をみますと、医薬品事業では、戦略製品である消化管運動機能改善剤「ガスマチン」、末梢循環改善剤「プロレナール」、カルバペネム系抗生物質製剤「メロペン」や前連結会計年度に発売しました統合失調症治療剤「ロナセン」等の売上高は増加しましたが、最主力品である高血圧症・狭心症治療薬「アムロジン」の特許期間満了の影響による減収の影響が大きく、売上高は520億4百万円（前年同四半期比6.5%減）となりました。一方、広告宣伝費、販売促進費、研究開発費等の減少により、販売費及び一般管理費が前年同四半期に比べて減少した結果、営業利益は106億36百万円（前年同四半期比8.8%増）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、住友制薬（蘇州）有限公司を連結の範囲に含めております。

その他の事業では、動物用医薬品、飼料・飼料添加物、食品添加物、工業薬品、診断用薬、研究検査用資材などの販売を行っており、売上高は140億44百万円（前年同四半期比3.1%減）、営業利益は6億1百万円（前年同四半期比39.0%増）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債および純資産等の状況に関する分析

・資産の部

長期預金の払戻等により投資その他の資産のその他が減少し、固定資産は減少しましたが、譲渡性預金等の有価証券の増加により流動資産が増加した結果、総資産は前連結会計年度末に比べ14億48百万円増加し、3,927億43百万円となりました。

・負債の部

支払手形及び買掛金の減少等により、前連結会計年度末に比べ35億74百万円減少し、632億24百万円となりました。

・純資産の部

四半期純利益による利益剰余金の増加およびその他有価証券評価差額金の増加が配当金の支払額等を上回り、前連結会計年度末に比べ50億23百万円増加し、3,295億19百万円となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は83.9%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

現時点では、業績に変動を与える要因は特に想定されませんので、平成21年5月11日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

・ たな卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末のたな卸高の算定に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度に係る実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

・ 繰延税金資産および繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化がなく、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

・ 税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,956	21,990
受取手形及び売掛金	79,234	79,759
有価証券	41,803	34,500
商品及び製品	40,342	39,674
仕掛品	2,527	2,934
原材料及び貯蔵品	11,281	11,901
短期貸付金	50,000	50,000
その他	23,266	23,174
貸倒引当金	△177	△394
流動資産合計	269,234	263,539
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	83,967	83,820
減価償却累計額及び減損損失累計額	△44,854	△44,329
建物及び構築物（純額）	39,112	39,490
機械装置及び運搬具	72,015	70,438
減価償却累計額及び減損損失累計額	△59,888	△59,390
機械装置及び運搬具（純額）	12,126	11,048
土地	9,975	9,975
建設仮勘定	2,906	4,024
その他	24,690	24,586
減価償却累計額及び減損損失累計額	△20,374	△20,021
その他（純額）	4,315	4,565
有形固定資産合計	68,437	69,104
無形固定資産	6,155	6,407
投資その他の資産		
投資有価証券	36,585	33,982
その他	12,445	18,362
貸倒引当金	△114	△102
投資その他の資産合計	48,916	52,242
固定資産合計	123,509	127,754
資産合計	392,743	391,294

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,528	18,523
未払法人税等	4,364	6,298
賞与引当金	3,724	8,120
返品調整引当金	70	96
売上割戻引当金	383	412
その他	25,190	19,897
流動負債合計	49,262	53,349
固定負債		
長期借入金	900	—
退職給付引当金	9,375	9,253
役員退職慰労引当金	41	42
その他	3,645	4,153
固定負債合計	13,962	13,449
負債合計	63,224	66,799
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,400	22,400
資本剰余金	15,860	15,860
利益剰余金	284,856	281,628
自己株式	△644	△643
株主資本合計	322,472	319,245
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,990	5,162
繰延ヘッジ損益	△2	—
為替換算調整勘定	△30	—
評価・換算差額等合計	6,956	5,162
少数株主持分	90	87
純資産合計	329,519	324,495
負債純資産合計	392,743	391,294

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	70,129	66,048
売上原価	27,826	25,422
売上総利益	42,303	40,626
返品調整引当金戻入額	25	25
差引売上総利益	42,329	40,652
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	73	15
給料	4,021	4,296
賞与引当金繰入額	2,233	2,314
役員退職慰労引当金繰入額	2	3
研究開発費	12,654	11,872
その他	13,135	10,912
販売費及び一般管理費合計	32,120	29,414
営業利益	10,208	11,237
営業外収益		
受取利息	258	213
受取配当金	368	334
受取保険金	234	198
貸倒引当金戻入額	—	220
その他	147	133
営業外収益合計	1,008	1,100
営業外費用		
支払利息	31	18
寄付金	299	269
固定資産除却損	—	173
その他	83	41
営業外費用合計	414	502
経常利益	10,802	11,835
税金等調整前四半期純利益	10,802	11,835
法人税等	4,353	4,015
少数株主利益	3	2
四半期純利益	6,446	7,817

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,802	11,835
減価償却費	2,668	2,662
退職給付引当金の増減額(△は減少)	15	368
受取利息及び受取配当金	△626	△547
支払利息	31	18
売上債権の増減額(△は増加)	△407	618
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,750	827
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,024	△2,757
その他	1,070	△363
小計	14,281	12,662
利息及び配当金の受取額	689	670
利息の支払額	△4	△6
法人税等の支払額	△10,032	△5,922
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,933	7,402
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	3,000
有価証券の売却による収入	—	1,000
有形固定資産の取得による支出	△7,735	△1,663
無形固定資産の取得による支出	△1,152	△346
投資有価証券の取得による支出	△1,171	△185
その他	140	479
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,918	2,283
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の純増減額(△は増加)	△19	△0
配当金の支払額	△3,439	△3,460
少数株主への配当金の支払額	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,459	△3,462
現金及び現金同等物に係る換算差額	26	65
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△8,417	6,290
現金及び現金同等物の期首残高	56,259	49,481
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	482
現金及び現金同等物の四半期末残高	47,841	56,253

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	医薬品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	55,641	14,488	70,129	—	70,129
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	55,641	14,488	70,129	—	70,129
営業利益	9,776	432	10,208	—	10,208

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	医薬品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	52,004	14,044	66,048	—	66,048
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	52,004	14,044	66,048	—	66,048
営業利益	10,636	601	11,237	—	11,237

(注) 1 事業区分は、製品の種類と当社グループの内部管理上の事業区分に基づいて「医薬品」及び「その他」にセグメンテーションしております。

2 各事業の主な製商品

事業区分	主な製商品
医薬品	医療用医薬品
その他	動物用医薬品、飼料・飼料添加物、食品添加物、診断用薬等

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

在外連結子会社及び重要な在外支店がありませんので、所在地別セグメント情報を記載していません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えており、所在地別セグメント情報の重要性が低いと判断するため記載を省略しております。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

I 海外売上高(百万円)	6,905
II 連結売上高(百万円)	70,129
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	9.8

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

I 海外売上高(百万円)	6,149
II 連結売上高(百万円)	66,048
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	9.3

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

平成22年3月期 第1四半期決算短信補足資料

—目次—

I. 連結財務ハイライト	1
II. 連結損益計算書	2
III. 連結貸借対照表	5
IV. 連結キャッシュ・フロー計算書	7
V. 四半期業績の推移	8
VI. 開発状況表	9
VII. 主な開発品のプロフィール	12

平成21年7月31日

大日本住友製薬株式会社

・本資料の数字は四捨五入で表示しています。四捨五入のため、合計数字に差異が生じる場合があります。

I. 連結財務ハイライト

1. 損益計算書項目

(億円)

	21年3月期		22年3月期		22年3月期		22年3月期	
	1Q実績	1Q実績	増減率%	2Q累計予想	増減率%	通期予想	増減率%	
売上高	701	660	△ 5.8	1,306	△ 2.8	2,640	—	
売上原価	278	254	△ 8.6	522	△ 1.2	1,065	2.7	
販売費及び一般管理費	321	294	△ 8.4	656	3.6	1,325	2.6	
販売費・一般管理費	195	175	△ 9.9	389	0.9	780	2.2	
研究開発費	127	119	△ 6.2	267	7.7	545	3.2	
営業利益	102	112	10.1	128	△ 29.6	250	△ 19.8	
経常利益	108	118	9.6	124	△ 31.9	240	△ 23.6	
四半期(当期)純利益	64	78	21.3	78	△ 28.2	150	△ 25.0	

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

増減率は対前年同期実績に対する増減率を記載しております。

本年5月に公表した業績予想は変更しておりません。

当連結会計年度より、住友製薬(蘇州)有限公司を連結の範囲に含めております。

1株当たり四半期(当期)純利益(円)	16.22	19.68	19.63	37.75
自己資本当期純利益率(ROE)	2.0%	2.4%	2.4%	4.6%

2. 貸借対照表項目

(億円)

	21年3月末	21年6月末	増減額
総資産	3,913	3,927	14
純資産	3,245	3,295	50
自己資本	3,244	3,294	50

自己資本比率 82.9% 83.9%

3. 設備投資および減価償却費の状況

(億円)

	21年3月期		22年3月期		21年3月期		22年3月期	
	1Q実績	1Q実績	増減額	2Q累計予想	増減率%	通期実績	通期予想	増減額
設備投資額(無形固定資産を含む)	34	12	△ 22	106	130	24	130	24
減価償却実施額	25	25	△ 0	107	120	13	120	13

・平成 22 年 3 月期の主な設備投資

技術研究本部 製剤開発機能集約工事

9.0 億円 (総予算 9.0 億円、平成 22 年 1 月完成予定)

4. キャッシュ・フロー計算書項目

(億円)

	21年3月期	22年3月期	増減額
	1Q実績	1Q実績	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	49	74	25
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 99	23	122
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 35	△ 35	△ 0
連結範囲の変更に伴う増減	—	5	5
現金及び現金同等物の四半期末残高	478	563	84

II. 連結損益計算書

1. 損益計算書

(億円)

	21年3月期	22年3月期			
	1Q実績	1Q実績	増減額	増減率%	
売上高	701	660	△ 41	△ 5.8	(増収要因) ・アムロジン以外の戦略製品の増収 ・新製品(ロナセン・トリーフ)の伸長 (減収要因) ・後発品の影響によるアムロジンの減収
海外売上高	69	61	△ 8	△ 11.0	
売上原価	278	254	△ 24	△ 8.6	・原価率39.6%→38.5% 棚卸資産の評価に関する会計基準適用の影響が減少
売上総利益	423	407	△ 17	△ 4.0	
販売費及び一般管理費	321	294	△ 27	△ 8.4	・新製品(アバプロ・ロナセン)関連費用の減少 ・ルラトンの海外臨床開発費の減少
人件費	82	83	1	1.4	
広告宣伝費	13	8	△ 5	△ 36.7	
販売促進費	27	23	△ 3	△ 12.6	
その他	73	61	△ 12	△ 16.5	
販売費・一般管理費	195	175	△ 19	△ 9.9	
研究開発費	127	119	△ 8	△ 6.2	
営業利益	102	112	10	10.1	
営業外収益	10	11	1		
営業外費用	4	5	1		
経常利益	108	118	10	9.6	・研究開発減税の拡充による減少
税金等調整前四半期純利益	108	118	10	9.6	
法人税等	44	40	△ 3		
少数株主利益	0	0	△ 0		
四半期純利益	64	78	14	21.3	

(注)売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

2. 事業の種類別セグメント情報

(億円)

	21年3月期 1Q実績			22年3月期 1Q実績			22年3月期 2Q累計予想			22年3月期 通期予想		
	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計
売上高	556	145	701	520	140	660	1,016	290	1,306	2,042	598	2,640
営業利益	98	4	102	106	6	112						

3. 主要製品の販売状況

医薬品(国内)

(リベート控除前、億円)

品 目 [薬 効]	21年3月期 1Q実績	22年3月期 1Q実績	増減率%	対2Q累計 予想 進捗率%	22年3月期	
					2Q累計予想	通期予想
ア ム ロ ジ ン [高血圧症・狭心症治療薬]	164	136	△16.9	53.9	253	480
ガ ス モ チ ン [消化管運動機能改善剤]	50	52	3.7	49.7	104	210
プ ロ レ ナ ー ル [末梢循環改善剤]	37	39	6.8	50.7	77	155
メ ロ ペ ン [カルバペネム系抗生物質製剤]	36	37	3.3	56.7	66	129
エ バ ス テ ル [持続性抗アレルギー剤]	22	20	△9.9	61.4	33	86
ス ミ フ ェ ロ ン [天然型インターフェロソ α 製剤]	16	15	△2.5	51.3	30	60
ロ ナ セ ン [統合失調症治療剤]	5	14	155.3	50.1	28	65
グ ロ ウ ジ ェ ク ト [ヒト成長ホルモン製剤]	11	12	6.9	52.9	23	46
メ ル ビ ン [経口血糖降下剤]	8	10	16.9	50.1	19	39
ド プ ス [ノルアドレナリン作動性 神経機能改善剤]	10	9	△5.7	52.7	18	36
エ ク セ グ ラ ン [抗てんかん剤]	9	9	△1.0	49.4	19	38
グ リ ミ ク ロ ン [経口血糖降下剤]	10	9	△9.6	51.5	17	34
ア ム ビ ゾ ー ム [深在性真菌症治療剤]	6	8	30.9	44.5	19	43
キ ュ バ ー ル [吸入ステロイド喘息治療剤]	10	8	△13.4	59.0	14	30
ア ル マ ー ル [高血圧症・狭心症・不整脈 治療剤]	8	8	△7.2	50.8	15	29
ル ー ラ ン [抗精神病剤]	8	7	△9.3	49.6	14	27
セ デ イ ー ル [セロトニン作動性抗不安薬]	7	7	△8.5	52.5	13	26
タ ガ メ ッ ト [H ₂ 受容体拮抗剤]	7	6	△14.0	53.7	12	24
ア バ プ ロ [高血圧症治療剤]	11	2	△77.8	11.2	21	60
ト レ リ ー フ [パーキンソン病治療剤]	—	2	—	43.6	4	11

医薬品(海外)

(億円)

品 目 [薬 効]	21年3月期 1Q実績	22年3月期 1Q実績	増減率%	対2Q累計 予想 進捗率%	22年3月期	
					2Q累計予想	通期予想
メ ロ ペ ネ ム [カルバペネム系抗生物質製剤]	61	55	△9.6	59.5	92	158
モ サ プ リ ド [消化管運動機能改善剤]	2	3	14.6	45.5	6	12
ゾ ニ サ ミ ド [抗 て ん かん 剤]	4	1	△72.2	55.8	2	4

工業所有権収入

(億円)

	21年3月期 1Q実績	22年3月期 1Q実績	増減率%	対2Q累計 予想 進捗率%	22年3月期	
					2Q累計予想	通期予想
工 業 所 有 権 収 入	0	1	—	8.0	18	31

(海外売上高)

(億円)

	21年3月期 1Q実績	22年3月期 1Q実績	増減率%	対2Q累計 予想 進捗率%	22年3月期	
					2Q累計予想	通期予想
海 外 売 上 高	69	61	△11.0	48.8	126	217
内、工業所有権収入	0	1	—	8.0	18	31
(連 結 売 上 高 比)	(9.8%)	(9.3%)			(9.6%)	(8.2%)

Ⅲ. 連結貸借対照表

[資産の部]

(億円)			
科 目	21年3月末	21年6月末	対前期末 増減額
[資 産 の 部]	3,913	3,927	14
(流 動 資 産)	2,635	2,692	57
現金及び預金	220	210	△ 10
受取手形及び売掛金	798	792	△ 5
有 価 証 券	345	418	73
た な 卸 資 産	545	542	△ 4
短 期 貸 付 金	500	500	—
繰 延 税 金 資 産	171	172	1
そ の 他	60	61	0
貸 倒 引 当 金	△ 4	△ 2	2
(固 定 資 産)	1,278	1,235	△ 42
有形固定資産	691	684	△ 7
建 物 及 び 構 築 物	395	391	△ 4
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	110	121	11
土 地	100	100	—
建 設 仮 勘 定	40	29	△ 11
そ の 他	46	43	△ 2
無形固定資産	64	62	△ 3
投資その他の資産	522	489	△ 33
投 資 有 価 証 券	340	366	26
繰 延 税 金 資 産	37	26	△ 11
そ の 他	146	98	△ 48
貸 倒 引 当 金	△ 1	△ 1	△ 0
資 産 合 計	3,913	3,927	14

譲渡性預金の増加

・鈴鹿工場
新固形製剤棟の設備稼動
による振替等

・有価証券時価評価による
増加

・長期預金払戻
・住友制薬(蘇州)出資金消去

[負債純資産の部]

(億円)

科目	21年3月末	21年6月末	対前期末 増減額
[負債の部]	668	632	△36
(流動負債)	533	493	△41
支払手形及び買掛金	185	155	△30
未払法人税等	63	44	△19
賞与引当金	81	37	△44
返品調整引当金	1	1	△0
売上割戻引当金	4	4	△0
その他	199	252	53
(固定負債)	134	140	5
長期借入金	—	9	9
退職給付引当金	93	94	1
役員退職慰労引当金	0	0	△0
その他	42	36	△5
[純資産の部]	3,245	3,295	50
(株主資本)	3,192	3,225	32
資本金	224	224	—
資本剰余金	159	159	—
利益剰余金	2,816	2,849	32
自己株式	△6	△6	△0
(評価・換算差額等)	52	70	18
その他有価証券評価差額金	52	70	18
繰延ヘッジ損益	—	△0	△0
為替換算調整勘定	—	△0	△0
(少数株主持分)	1	1	0
負債純資産合計	3,913	3,927	14

・7月支給賞与額の確定により、引当金からその他(未払費用)へ振替

・住友製薬(蘇州)における借入金

・四半期純利益による増加
・期末配当実施による減少

IV. 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	21年3月期 1Q実績	22年3月期 1Q実績	
税金等調整前四半期純利益	108	118	
減価償却費	27	27	
受取利息及び受取配当金	△ 6	△ 5	
売上債権の増減額	△ 4	6	
たな卸資産の増減額	18	8	
仕入債務の増減額	△ 10	△ 28	
その他	11	0	
(小計)	143	127	
利息等の受取及び支払額	7	7	
法人税等の支払額	△ 100	△ 59	
営業活動によるキャッシュ・フロー	49	74	
定期預金の払戻による収入	-	30	← 長期預金払戻
有価証券の売却による収入	-	10	
有価証券・投資有価証券の取得による支出	△ 12	△ 2	
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 89	△ 20	← 21年3月期1Q ・鈴鹿工場新固形製剤棟等 の有形固定資産の取得による支出
その他	1	5	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 99	23	
配当金の支払額	△ 34	△ 35	
その他	△ 0	△ 0	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 35	△ 35	
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1	
現金及び現金同等物の増減額	△ 84	63	
現金及び現金同等物の期首残高	563	495	
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	-	5	← 住友制薬(蘇州)を連結範囲に含めたことによる増加
現金及び現金同等物の四半期末残高	478	563	

V. 四半期業績の推移

(億円)

	21年3月期				22年3月期
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
売上高	701	642	676	621	660
売上原価	278	250	260	249	254
販売費及び一般管理費	321	312	322	336	294
販売費・一般管理費	195	191	186	191	175
研究開発費	127	121	135	145	119
営業利益	102	80	94	36	112
営業外収益	10	4	12	4	11
営業外費用	4	10	3	10	5
経常利益	108	74	102	29	118
特別利益	-	-	-	11	-
特別損失	-	-	-	3	-
税金等調整前四半期純利益	108	74	102	37	118
四半期純利益	64	44	62	29	78

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

VI. 開発状況表 (平成 21 年 7 月 31 日現在)

■ 国内で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	備考
申請中	SM-11355 注射剤	ミリプラチン水和物 miriplatin hydrate	肝細胞癌	自社	用時溶解剤
	SMP-862 経口剤	メトホルミン塩酸塩 metformin hydrochloride	糖尿病	Merck Santé 社	肝糖新生抑制作用・インスリン抵抗性改善作用
	メロペン MEROPEN 注射剤	メロペネム水和物 meropenem hydrate	(適応症追加) 発熱性好中球 減少症	自社	既承認適応症: 種々の細菌による 中等度以上の感染症

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	備考
第Ⅲ相	SMP-508 経口剤	レパグリニド repaglinide	糖尿病	Novo Nordisk 社	速効型インスリン分泌促進剤
	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症	自社	日本・韓国・台湾の 共同治験

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	備考
第Ⅱ相	AS-3201 経口剤	ラニレストット ranirestat	糖尿病合併症	自社	杏林製薬(株)との共同開発
	DSP-8153 経口剤	アムロジピン ベシル酸塩 amlodipine besilate イルベサルタン irbesartan	高血圧症	自社	配合剤

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	備考
第Ⅰ相	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱	自社	
	DSP-3235 経口剤	未定	糖尿病	キッセイ薬品 工業(株)	SGLT1 阻害剤
	DSP-3025	未定	気管支喘息・ アレルギー性鼻炎	自社	TLR7 アゴニスト

【2009 年 5 月 決算発表時点からの主な変更点】

アムビゾーム適応症追加

承認されたため削除

■ 海外で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	開発国/地域	備考
第Ⅲ相	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症 双極性障害	自社	米国・欧州等	
	アムルビシン 塩酸塩 注射剤	アムルビシン 塩酸塩 amrubicin hydrochloride	小細胞肺癌	自社	中国	国内販売名： カルセド

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	開発国/地域	備考
第Ⅱ相	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱	自社	米国・欧州	

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	開発国/地域	備考
第Ⅰ相	SMP-028 経口剤	未定	気管支喘息	自社	米国	
	DSP-7238 経口剤	未定	糖尿病	自社	欧州	DPPIV阻害剤
	DSP-8658 経口剤	未定	糖尿病	自社	米国	PPAR α/γ モジュレーター

【2009年5月 決算発表時点からの主な変更点】

なし

■ 海外導出品の開発状況

一般名／コード名 (日本での販売名)	予定適応症	開発状況
AG-7352	癌	2003 年 10 月、Sunesis 社に全世界の独占的開発権をライセンス 同社が北米で第Ⅱ相試験実施中(同社開発コード:SNS-595)
SMP-601	重症感染症	2005 年 5 月、Protez Pharmaceuticals 社へ欧米での開発・販売権 をライセンス 米国で第Ⅱ相試験終了(同社開発コード:PZ-601)
アムルビシン 塩酸塩 (カルセド)	小細胞肺癌	2005 年 6 月、Celgene 社(旧 Pharmion 社)へ欧米での開発・販売 権をライセンス 同社が欧米で第Ⅲ相試験を実施中
ラニレスタット AS-3201	糖尿病合併症	2005 年 9 月、エーザイ(株)に日本を除く全世界の開発・販売権をラ イセンス 同社が米国、カナダ、欧州で第Ⅱ/Ⅲ相試験を実施中
ドロキシドパ (ドプス)	透析時の低血圧・ 神経障害による 起立性低血圧	2006 年 5 月、Chelsea 社に日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発・販売権をライセンス 同社が透析患者の低血圧に対する第Ⅱ相試験を米国で実施中 また、神経障害による起立性低血圧に対する第Ⅲ相試験を欧米で 実施中
DSP-3025	気管支喘息・ アレルギー性鼻炎	2005 年 3 月、AstraZeneca 社と開発販売契約を締結 同社は日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の開発販売権を持つ 同社が欧州で第Ⅰ相試験を実施中

【2009 年 5 月 決算発表時点からの主な変更点】

ラニレスタット(AS-3201)

エーザイ(株)が米国、カナダ、欧州で第Ⅱ/Ⅲ相試験を開始

VII. 主な開発品のプロフィール (平成 21 年 7 月 31 日現在)

SM-11355 (ミリプラチン水和物) 肝細胞癌治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、脂溶性白金錯体で、油性造影剤 (ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル) に懸濁して肝動注する。油性造影剤を担体として用いることで、腫瘍部位に選択的に滞留し、長期間徐放性に活性体を放出させることができる。臨床試験において、全身性の副作用、非癌部への影響が軽度で、強い抗腫瘍効果を発揮することが示されている。
- ・ 開発段階：申請中 (国内)

SMP-862 (メトホルミン塩酸塩) 糖尿病治療剤

- ・ Merck Santé 社から導入
- ・ 本剤は、インスリン分泌促進を伴わず、肝糖新生抑制作用、末梢での糖取り込み促進作用等を介して血糖降下作用を示す特長を持つメトホルミン塩酸塩製剤である。当社は、1961年にメトホルミン塩酸塩を含有する「メルビン錠」を日本で最初に自社開発・販売しているが、欧米の承認効能効果、用法用量とは異なっている。近年の欧米での大規模試験の臨床知見の蓄積を受け、日本人における適切な効能効果、用法用量を設定する臨床試験を実施し、国内糖尿病治療に資することを目指している。
- ・ 開発段階：申請中 (国内)

SMP-508 (レパグリニド) 糖尿病治療剤

- ・ Novo Nordisk 社から導入
- ・ 速効型インスリン分泌促進剤。食後血糖上昇の抑制に加え、空腹時血糖やHbA1cの低下が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅢ (国内)

SM-13496 (ルラシドン) 統合失調症・双極性障害治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ドーパミン-2、セロトニン-2A、セロトニン-7、セロトニン-1A およびノルアドレナリン- α 2c レセプターに高い親和性を示すという特徴的な受容体結合プロフィールを有している。一方、ヒスタミン-1 とアセチルコリン-M1 レセプターに対してはほとんど親和性を示さない。統合失調症に対して優れた効果を示すとともに、錐体外路系や心臓系に対する作用および体重増加等について高い安全性を有すると期待される。また双極性障害に対しても有効性が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅢ (米国・欧州等)、フェーズⅢ (国内；日本・韓国・台湾の共同治験)

AS-3201 (ラニレスタット) 糖尿病合併症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病合併症の一つである糖尿病性神経障害を改善する。同種薬剤に比べ、酵素阻害作用が強く、作用持続が長い。ヒト神経内への本剤の移行、用量依存的な神経内ソルビトール、フルクトースの蓄積阻害が臨床試験で確認されており、これまでに得られた試験成績から本剤による神経機能および症状の改善効果が期待される。
- ・ 2005年9月に海外の開発・販売権についてエーザイ㈱とライセンス契約を締結した。同社が米国、カナダ、欧州でフェーズⅡ/Ⅲ試験を実施中。
- ・ 開発段階：フェーズⅡb (国内、杏林製薬㈱との共同開発)

D S P - 8 1 5 3 高血圧症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ カルシウム拮抗薬アムロジピンベシル酸塩とアンジオテンシン II 受容体拮抗薬イルベサルタンの配合剤。イルベサルタンまたはアムロジピン投与では十分な降圧効果が得られない患者にも強い降圧効果が期待される。また、腎保護作用のエビデンスを有するイルベサルタンと脳・心保護作用の豊富なエビデンスを有するアムロジピンの配合剤であることから、脳・心・腎保護作用が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズ II (国内)

S M P - 9 8 6 過活動膀胱治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ムスカリン受容体に対する拮抗作用に加え、Na チャンネル阻害作用による求心性神経の過活動を抑制する作用を有する。これらの作用により、尿意切迫感、排尿及び尿失禁の回数をより効果的に減少させる過活動膀胱治療剤になることを期待している。ムスカリン-3 拮抗作用に由来する副作用 (口渇) との分離も期待できる。
- ・ 開発段階：フェーズ II (米国・欧州)、フェーズ I (国内)

D S P - 3 2 3 5 糖尿病治療剤

- ・ キッセイ薬品工業㈱からの導入品
- ・ 本剤は、ナトリウム依存性グルコース共輸送担体 1 (SGLT1) に対する選択的阻害薬である。これまでの α -GI 剤とは異なる新しい作用メカニズムにより消化管からの糖吸収を抑制する食後高血糖改善剤となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I (国内)

D S P - 3 0 2 5 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、Toll-like receptor 7 (TLR7) に対するアゴニスト作用を有する免疫調節剤であり、気管支喘息、アレルギー性鼻炎において長期寛解をもたらす治療薬になることを期待している。
- ・ 当社における新しい作用メカニズムのアレルギー性疾患治療剤の探索研究において見出された有望化合物群が契機となって 2004 年より AstraZeneca 社と新規アレルギー性疾患治療剤に関する共同研究を実施することとなり、その成果として本剤を見出した。
- ・ 2005 年 3 月に AstraZeneca 社と共同開発販売契約を締結した。契約に基づき当社は日本、中国、韓国、台湾を開発・販売テリトリーとし、AstraZeneca 社はこれら 4 カ国を除く全世界を開発・販売テリトリーとして本剤を共同で開発する。同社が欧州でフェーズ I を実施中。
- ・ 開発段階：フェーズ I (国内)

S M P - 0 2 8 気管支喘息治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、気管支喘息の病態形成に関与する主要な炎症細胞に対して、炎症系のメディエーターを抑制するなど、幅広い作用を示す。喘息モデルにおいて有効性を示す結果を得ており、強い抗炎症作用を有する新規メカニズムの喘息治療剤になることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I (米国)

D S P - 7 2 3 8 糖尿病治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、DPPIV阻害薬であり、主に GLP-1 を介したインスリン分泌促進作用により高血糖を改善する。GLP-1 分解酵素である DPPIVに対する選択的な阻害作用を有し、かつ、強力な薬効を示すことから、より良好な血糖コントロールを示す DPPIV阻害剤となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I (欧州)

D S P - 8 6 5 8 糖尿病治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 (PPAR) α および γ の賦活化作用を有する PPAR α/γ モジュレーターである。糖代謝改善作用に加えて脂質代謝改善作用を併せ持ち、循環血漿量増加・体重増加等の副作用を持たない次世代のインスリン抵抗性改善薬となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I (米国)

以 上